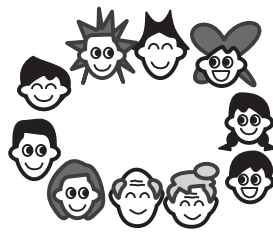


津谷歯科医院 口腔ケア新聞

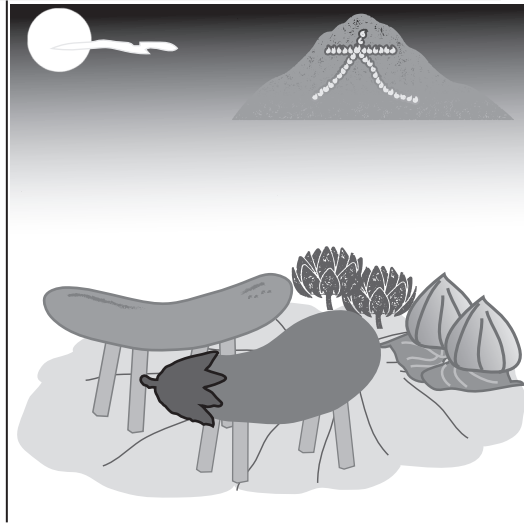
NPO法人
訪問歯科診療
を広める会
賛助会員



令和5年8月号
発行人 津谷歯科医院
院長 津谷良
住所 岡山市中区海吉1807-14
紙面に関するお問い合わせは下記まで
電話：0120-779-418
配信代行 訪問歯科診療を広める会

皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？
津谷歯科医院、院長の津谷良です。

周術期とは手術前後の時間的な範囲のことで、前期、術中期、後期の3つに分けられます。周術期の管理は、手術の成功や患者さんの安全性、早期の回復にとってとても重要なことです。周術期におけるトラブルや口腔に起因する合併症を防ぐ目的で、2012年の診療報酬改定で「周術期の口腔機能管理」が保険導入されました。その後、口腔機能を管理することで、術後のQOL向上につながり医療費が削減できることが明らかとなり、肺炎等の合併症リスクの高い患者さんへの手術や手術をしない抗がん剤治療・放射線治療・緩和ケアにも適応範囲が拡大されました。今月は、「周術期等の口腔管理の重要性」についてご紹介したいと思います。



1. 口腔管理による効果

周術期等の口腔管理の必要性を3つあげてみます。

① 周術期の合併症の予防・・・口腔は細菌やウイルスの繁殖にとって理想的な環境です。口腔内の細菌は、呼吸器感染症や肺炎等の合併症を引き起こす可能性があります。術後肺炎は、手術後に発生する肺の感染症で、一般的に手術後48時間以内に症状が現れる場合を指します。手術によって体内に異物(気管チューブ、人工呼吸器等)が挿入されることで、肺の通気や粘液の排出が妨げられ、細菌やウイルスが肺に感染する可能性が高くなります。術後肺炎は、手術の種類や患者さんのリスク要因によって異なりますが、発症率は約1~5%程度です。術後肺炎の発症率が高いとされる主な疾患や状況として、高齢者、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、喫煙歴、免疫抑制状態、嚥下障害、大手術または長時間の手術等があげられます。

② 感染予防・・・手術中や手術後の期間において、口腔内の細菌が手術部位に侵入することで、手術創の感染リスクが高まります。術前と術後に口腔清掃を行い細菌を減らすことで感染症の予防が可能となり

ます。

③ 疼痛・炎症コントロール・・・手術をしない場合でも口腔管理が重要になる場合があります。抗がん剤や放射線治療では数日から数週間後に口腔粘膜の炎症や口腔乾燥が生じて摂食・咀嚼・嚥下に影響を与えることが知られています。歯科による口腔管理で疼痛や炎症をコントロールして、がん治療そのものが中断しないようにします。また緩和ケアにおける口腔トラブルの発生頻度は非常に高く、がん患者さんのほぼすべてが口腔乾燥に苦痛を感じています。口腔乾燥は口の痛みや食べられない等様々なトラブルの原因となります。歯科による介入で、口腔トラブルを予防しQOLを改善します。

2. QOL向上と医療費削減

適切な口腔管理は、患者さんの快適さを確保し、傷口の癒着や口腔粘膜の健康状態を改善する助けとなります。その結果として、入院日数の短縮、術後絶食日数の減少、抗菌薬投与期間の減少、病原細菌の検出率低下等に寄与し、術後のQOL向上と医療費削減ももたらします。

◆ 周術期と抗がん剤・放射線治療等には歯科による口腔機能管理が有効です ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって 

ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね」って話をしていたのに・・・そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組みなければいけないかなって、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)

診療科目 歯科 小児歯科

休診日 木曜・日曜・祝祭日

院長 津谷 良

岡山市中区海吉1807-14

☎ 0120-779-418 FAX 0120-779-413